

トップに
きく

佐賀県玄海町

岸本英雄さん × 新欣樹

(玄海町長)

(電源地域振興センター理事長)

かつて石炭とともに繁栄し、石炭とともに衰退した玄海町。その後、原子力発電所の誘致でよみがえった。農漁業を活かした他地域との交流、観光によるまちおこしなど新しい取り組みに挑戦する岸本町長にお話を伺う。



玄海町長

岸本英雄さん

昭和28年生まれ。平成7年佐賀県議会議員に初当選。県議会議員を11年間務めながら、玄海町商工会会長、玄海町観光協会会長、玄海町総合開発審議会会長、唐津上場商工会会長などを歴任。平成18年8月に玄海町長就任。現在2期目。

■佐賀県玄海町 (人口: 6,738人 (H17国勢調査より) 面積: 36.01km²)

九州北西部佐賀県の東松浦半島の中央に位置し、西は玄界灘、北・東・南は唐津市に接しています。青い海、緑の山、清流の川と自然の景観に恵まれた美しい町です。町の北部に位置する玄海原子力発電所は九州初の原子力発電所であり、九州の約27% (H21実績) の電力をまかっています。

■原子力関連施設

玄海原子力発電所

出力: 347.8万kW (1～4号機計) 運転開始: 昭和50年10月 (1号機)

事業者名: 九州電力株式会社

■今号の表紙

玄海町の風景 (大: 浜野浦の棚田、小上: 秋の有浦地区、小下: 三島神社秋の例祭)





全国トップクラスの高品質の牛肉として知られる佐賀牛は人口を超える頭数が飼育されている。



上場台地で作られるハウスみかんは形、味、糖度ともに優れており全国の品評会で1位になったこともある。



町の北部に位置する九州電力(株)玄海原子力発電所は総出力347.8万kWの九州初の原子力発電所。

原子力発電所とともに 半世紀

新・玄海町は昔、石炭で栄えていたと聞いております。石炭鉱業が衰退した後、原子力発電事業の誘致に成功し、町の発展につなげていかれました。その歴史はどうだったのでしょうか。

岸本町長・玄海町は昭和31年、有浦村と値賀村の2村が合併して誕生しました。当時は農漁業のほか炭鉱関連の産業が栄えていました。その後、石炭鉱業が斜陽化すると、過疎化が進み町は衰退していききました。

こうした中、昭和40年に佐賀県より原子力発電所立地の申し入れがなされ、その翌年に町議会は原子力発電所誘致を議決しました。町の発展のきっかけになるものとして原子力発電所に期待したのだと思います。

町議会の誘致決議から50年近くの歳月が流れ、発電所の固定資産税や電源立地地域対策交付金等を支えに町は大きく発展しました。そろそろ国の支援に頼るばかりではなく、国のエネルギー政策に町がどのように貢献できるかを考えるべき時期にいたるのではないかと思います。

新・プルサーマル発電については、紆余曲折があつて、結果として、玄海原子力発電所が我が国初となりました。それから1年が経ちますが、

現在の心境をお聞かせ下さい。

岸本町長・発電開始からは1年ですが、平成18年のプルサーマル計画同意からは4年が経ちます。玄海町は原子力発電所の立地地域であることが縁でフランスのグラブリーヌ町と交流しているのですが、フランス人からみるとプルサーマル発電は昔から実施されており驚くことではないようです。以前、グラブリーヌ町を訪問したときに、なぜ日本人はプルサーマル発電の実施で大騒ぎするのかと問いかけられ、戸惑ってしまいました。

玄海原子力発電所でのプルサーマル発電実施に至るまで苦労がなかったわけではありませんが、何の支障もなく運転され、我が国の科学技術のすばらしさを再確認するとともに、日本人として誇らしく感じました。

ウラン資源の節約、廃棄物処理、核不拡散という問題を考えると、当

面の間はプルサーマル発電を避けて通るわけにはいかないのではないのでしょうか。このことを国、県、そして貴センターは国民に強く訴えていくべきです。

新・原子燃料サイクルの関連では、プルサーマル発電とともに使用済燃料の貯蔵が話題になっています。

岸本町長・玄海原子力発電所の使用済燃料貯蔵プールはあと4〜5年で満杯になります。そのため、九州電力(株)はリラッキング(貯蔵プールの大きさは変えず、使用済燃料の間隔を縮めて貯蔵可能量を向上させる工事)の実施について国に許可を求めています。青森県六ヶ所村の再処理工場の稼働が更に2年延長され、使用済燃料の扱いについて町民は不安を感じています。使用済燃料を原子燃料サイクルの中でどう位置づけるのか、国からの具体的な説明がほしいですね。



電源地域振興センター理事長

あたらしく **新 欣樹**

昭和18年生まれ。昭和40年、通商産業省入省。科学技術庁長官官房長を経て、中小企業庁長官などを歴任。石油公団理事などを経て日本原子力発電株式会社副社長、平成21年7月より財団法人電源地域振興センター理事長。

農畜産物、海産物に 恵まれた豊かな町

新・玄海町では農業と漁業を中心とした地域づくりを力を入れていらっしゃると思いますが、特産品について御紹介して下さい。

岸本町長：玄海町は自然環境に恵まれ、美味しい食べ物がたくさんあります。

第一に推奨したいのが佐賀牛です。全国トップクラスの高品質の牛肉として最高級ブランドを誇っています。玄海町では人口を超える頭数の牛が飼育されており、その多くが佐賀牛として日本全国のみならず米国や香港に出荷されていきます。宮崎県で口蹄疫が発生したときは、消毒や立入制限などの措置を講じましたが非常に不安でした。結果として宮崎県だけで収めてもらって助かりました。

第二に推奨したいのがハウスみかんです。玄海町のハウスみかんは形、



玄海町の漁業は真鯛やフグを中心とする養殖で、町の西部に広がる仮屋(かりや)湾は佐賀県一の鯛の養殖場となっている。

味、糖度とも優れており、全国の品評会で1位となりました。玄海町は上場台地と呼ばれる標高100〜200mの低い山々からなる丘陵地帯に位置しています。上場台地の土地はやせている上に降水量が少なく、植物にとつて厳しい土地なのですが、こうした土地だからこそ美しいみかんが作れるのです。

ほかにも、「さがほのか」ブランドで有名ないちご、メロン、たまねぎ、じゃがいもなどが栽培されており、農産物の宝庫といえます。

新・海産物では真鯛が有名ですね。

岸本町長：玄海町では真鯛の養殖とフグの養殖が盛んです。近年、海水温が上昇し養殖が難しくなったり、流通市場での販売価格が下落したりして、漁業者は厳しい環境におかれています。お隣の唐津市呼子町のイカのように、玄海町の真鯛とフグも全国ブランドに育成し漁業者の収入の底上げをはかっていますね。
新・農業と漁業を他地域との交流にも活用していらっしゃるようですが。
岸本町長：体験型の修学旅行で都市部の中高生を対象に体験民泊を実施しています。中高生には佐賀牛や鯛のえさやり、イカさばきなどの作業を通じて農家・漁家の日常生活を体験してもらい、地域の人々との交流を深めています。



平成11年に「日本の棚田百選」に認定された浜野浦の棚田と夕日。正面に夕日が沈む5月の連休前後には多くの観光客が訪れる。

都市部の中高生からは、玄海町の暮らしは驚くことが多く、貴重な体験をさせてもらったと好評を博しています。一方、受入側の農家・漁家からも、自分たちが当たり前と思っていたことが都会の子供たちにとっては新鮮なものであるということに気づき、自分たちの地域のすばらしさを再確認させられたと喜びの声が上がっています。

観光によるまちづくり

新・玄海町の棚田は農林水産省の「日本の棚田百選」に選定されています。私も写真を趣味にしております。前回玄海町にお伺いしたときに棚田の稲穂が頭を垂れたところを写真に収めることができました。また、水をたたえた棚田の後ろに海に沈む夕日が映え、沈みゆく夕日が棚田と海を照らしている5月頃の写真も拝見いたしました。たいへん美しい風景です。

岸本町長：「浜野浦の棚田」ですね。250枚程度の小規模な棚田ですが、すばらしい景色を楽しむことができます。他地域の棚田には雄大で男性的なものが多いのですが、浜野浦の棚田は妖艶で女性的なものです。妖艶さでは日本一の棚田だと思います。この美しい棚田を全国の皆様にご覧いただき、妖艶さを生で感じてほしいものです。

この棚田はNPO法人地域活性化支援センター(ファッションデザイナーの桂由美さんが理事)の展開する「恋人の聖地プロジェクト」において聖地に認定されています。棚田を見下ろす展望台には多くのカップルが訪れ、時には結婚式も行われています。若い人たちのみならず、年配のご夫婦も数多く訪れていらっしゃいます。

水を張った棚田の後ろに夕日が沈み、妖艶な雰囲気が一番味わえるのは5月の連休中ですが、このときにはカメラマンが300人以上集まっています。たいへん混雑します。



仮屋湾に面する玄海海上温泉「パレア」の展望露天風呂から見る夕日は絶景。

新・西洋発祥の科学技術を象徴する原子力発電所の近くに日本の原風景といえる棚田が存在し、どちらも注目に値するのですが、両者はあまりにも対照的ですね。

岸本町長・玄海町を訪れる人には原子力発電所と棚田のギャップに驚き、感動していただきたいと思っています。それから玄海町には海上に突出した温泉施設である「玄海海上温泉パレア」があり、温泉の薬効や展望露天風呂から見る夕焼けなどを堪能することができます。

原子力発電所付属の「玄海エネルギーパーク」、浜野浦の棚田、玄海海上温泉パレアはいずれも玄海町を南北に走る国道204号沿いであり、唐津を起点とする観光ルートに組み込まれていますが、今後これらの観光資源に「薬用植物栽培研究所」と「玄海町次世代エネルギーパーク」が加わります。

新・薬用植物栽培研究所と玄海町次世代エネルギーパークは核燃料サイクル交付金を活用していると伺って



小学6年生を対象に実施されている「少年の船」。日韓交流の歴史を学ぶことにより親善交流を図っている。

おりますが、どのような施設でしょうか。

岸本町長・薬用植物栽培研究所は九州大学と共同で7割以上の漢方薬に配合され、また醤油、一部の化粧品などにも用いられている「甘草」をはじめとする各種薬草の栽培研究を実施する施設です。「甘草」は日本に自生しておらず、ほぼ100%を中国などからの輸入に頼っています。来年5月にオープンする予定ですが、薬草の栽培研究をおこなう日本初の施設ですので観光の目玉になるのではないのでしょうか。栽培研究が成功した暁には、「甘草」の量産、薬膳料理や薬草風呂などの開発、製薬会社の誘致など、観光を含めた様々な産業の振興や雇用拡大が期待できます。

玄海町次世代エネルギーパークは次世代を担う子どもたちが風力や太陽光などの自然エネルギーや水素エネルギーなど次世代のエネルギーにふれることで、日々のエネルギーのある暮らしや地域とのつながりに付き、理解する「学びの場」を創出することをねらいとしています。できるだけ多くの人々に来場していただきたいので、子どもが楽しめる遊園地の施設、お年寄りが楽しめるゲートボール場やグラウンドゴルフ場を設けたいと考えています。玄海町次世代エネルギーパークは平成24年度にオープンする予定です。

今後の課題と展望

新・岸本町長は今年7月、無投票で町長に再選されました。合併を回避して自主独立路線をとる中で住民の定住化を図るという課題等があると思いますが、今後の町政に向けた抱負をお聞かせください。

岸本町長・玄海町は平成15年6月に唐津・東松浦合併協議会から離脱し、自主独立路線を選択しました。合併すると、きめ細かい行政サービスの提供が難しくなり、また玄海町民としての一体感が失われてしまうのではないかという町民の不安が背景にあったのではないかと思います。玄海町でも少子高齢化、人口減少が続いており、将来にわたり玄海町として存続できるかどうかは予断を許しません。地元に住む人の誇りや自信を大切にしていきたいと考えています。

それから、人材育成に力を入れていきます。年間50人程度しか生まれていませんが、子どもたちは未来を支える大切な宝物です。現在、中学3年生まで医療費を無料化しているほか、塾のある唐津市に行かなくてもすむように補修授業を実

施しています。将来、理工系、原子力系の大学など高等教育機関を設置したいと考えています。

新・最後に何か強調しておきたいことなどございますか。

岸本町長・玄海町には原子力発電所、農畜産物、海産物など自慢するものはいろいろありますが、何といても玄海町で育った子どもたちが町一番の自慢です。玄海町の子どもたちは純粋さと、互いに助け合う心をもっています。繰り返しになりますが、この子どもたちこそ町一番の宝であり、自慢です。

新・子どもたちがいつまでも純粋さと誠実さを失わず、玄海町の将来を担っていく人材に成長していくのを楽しみにしております。本日はありがとうございました。

